

授業科目名	言語発達学	単位数	2
担当教員名	伊藤 一美	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>B.問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概をもつこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 初期の言語獲得の過程および読み書きの発達過程を理解する。</p> <p>(2) 言語獲得の理論を理解する。</p> <p>(3) 言語のさまざまな側面から、言語が持つさまざまな機能について考究する。</p> <p>(4) 言語発達の障害と言語障害および発達性ディスレクシアについて理解する。</p> <p>(5) 第二言語・外国語学習の在り方について探究する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>言語発達学とは、人の言語発達の過程の解明を目指す心理学の1分野である。本科目では、乳児期から幼児期における初期の言語獲得および読み書き言語の過程とその理論的背景を学ぶことをとおして、言語が持つさまざまな機能について、アクティブラーニングの手法を用いて考究する。「コミュニケーション言語と学習言語」、「思考と言語」を学び、言語は人が持っているコミュニケーションツールのひとつであるが、単に言語はコミュニケーションの機能だけではなく、人との関係を築く上で重要な役割を果たしていること、さらには思考の道具のひとつであることを理解することを目指す。「言語発達の障害と言語障害および発達性ディスレクシア」を学ぶことから、言語獲得の指標だけではなく、言語獲得に必要とされる機能について理解を深めることを目指す。「バイリンガルと第二言語習得」を学ぶことをとおして、日本語を第二言語として学習すること、および外国語学習の在り方について探究することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：言語獲得の過程(1) 前言語期のコミュニケーション</p> <p>第2回：言語獲得の過程(2) 養育者の役割</p> <p>第3回：言語獲得の過程(3) 共同注意</p> <p>第4回：言語獲得の過程(4) 音韻の発達</p> <p>第5回：言語獲得の過程(5) 語彙獲得の理論的背景</p> <p>第6回：言語獲得の過程(6) 文法と語用論</p> <p>第7回：言語獲得の過程(7) ナラティブと会話能力</p> <p>第8回：言語獲得の過程(8) 読み書きの発達過程</p> <p>第9回：言語がもつさまざまな機能について(1) コミュニケーション言語と学習言語</p> <p>第10回：言語がもつさまざまな機能について(2) 思考と言語</p> <p>第11回：言語発達の障害と言語障害および発達性ディスレクシア</p> <p>第12回：事例検討(1) 言語獲得・コミュニケーションにつまずきを示す事例</p> <p>第13回：事例検討(2) 読むこと・書くことにつまずきを示す事例</p> <p>第14回：バイリンガルと第二言語習得</p>			

第15回：まとめ 言語発達とコミュニケーション  
定期試験

スクーリングでの学修内容

言語獲得の過程(前言語期のコミュニケーション、養育者の役割、共同注意、音韻の発達、語彙獲得の理論的背景、文法と語用論、ナラティブと会話能力、読み書きの発達過程)、言語がもつさまざまな機能(コミュニケーション言語と学習言語、思考と言語)、言語発達の障害と言語障害および発達性ディスレクシア、事例検討(言語獲得・コミュニケーションにつまずきを示す事例および読むこと・書くことにつまずきを示す事例アクティブラーニングの手法も用いて検討する)、バイリンガルと第二言語習得について、主に講義を行う(第1回から第11回までのすべての内容と、第12回および第13回の中から選択した内容、第14回および第15回の内容を含む)。

教科書

岩立志津夫・小椋たみ子(2017)『よくわかる言語発達 改訂新版』ミネルヴァ書房

参考文献

- (1) 岡本 夏木(1982)『子どもとことば』岩波新書
- (2) 今井むつみ・針生悦子(2014)『言葉をおぼえるしくみ—母語から外国語まで—』ちくま学芸文庫
- (3) 今井むつみ(2013)『ことばの発達の謎を解く』ちくまプリマー新書
- (4) 宮本 信也(編)(2019)『学習障害のある子どもを支援する』日本評論社

学生に対する評価

スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。